＜特　集＞
主体的・対話的で深い学びの取組（２・３面）
＜教育現場への提言＞
課題解決型職場体験について
ホテルニュー桂 若女将　渡邉あすか（５面）

巻頭

松は緑に

両津中学校
嶋見靖之

新型コロナウイルス感染症が未だ猛威を振るう中、感染拡大防止のため生活の中で歌を歌う機会が少なくなった。ときわ会歌「松は緑に」が支部や年度の総会で歌われない年が三年続いた。

来年度（令和五年度）ときわ会は創設百五十周年を迎える。節目の年には一年早いが、会員が歌い続け、歌い合わせてきた「松は緑に」について綴っていきたい。

「松は緑に」がときわ会歌と制定されたのは昭和三十五年。公募を経て制定された。作詞は河本茂先生（昭和十九年度）、作曲は住安政吉先生（昭和十七年度）。ときわ会の大先輩である。

河本先生の出身地、柏崎市西山町がある刈羽・柏崎支部で平成三十年に刊行した「刈柏　温故知新」には、河本先生の作詞作業について次のように綴られている。

「歌のテーマは『伝統と創造』と決めていたが、決め手となる最後のフレーズづくりに苦労したと河本氏は振り返る。ある日、生徒に課題を出し、教室を巡視していると突如『ああ　ときわなる　松は緑に』が浮かび、思わずメモをとった。大衆的で単純な言葉だが、理屈なしに『ときわ会歌』の支えになると直感したという。そのフレーズを支えるための第一連は、教育界でのときわ会の歴史・伝統とそれへの賛歌、第二連はこれからの教育界の統合と創造的な発展をうたった。『野を駆くる風は光て』は若い人たちへの期待、『新しき越後国原』は教育後進県から脱却したいとの願いだった。」

私事だが、音楽が研究教科であるためか「松は緑に」を指揮する機会が何度とあった。歌の指揮は体を動かすことだけでなく、息継ぎを歌い手に伝えるためにも指揮者自ら歌うことが求められる。恥ずかしながら歌詞の一番と二番の言葉に迷いが出ることがある。「聖ら」と「遥か」、「集う」と「歩む」は迷うところだった。「聖ら」は「ともしび」のイメージとつながり、「遥か」は「大江」のイメージにつながる。「集う」があって「歩む」がある。このように詩の意味を考えていくことで言葉の迷いはなくなった。

二番の歌詞「新しき越後国原」のところを歌うと希望が湧いてくるように感じるのは、一番の歌詞「北海の波は荒くも」とのイメージの対比があるからと思う。曲は二部形式でできている。このような歌詞や曲の構成が長く愛される歌の土台になっていると感じる。

ときわ会創設百二十周年記念誌には、「河本先生がときわ会本旨と先輩・同僚と話し合った言葉を大事にして作詞した」と綴られている。「ひとすじに集う」仲間が思いを分かち合い「ひとすじに歩む」。

ときわ会員であることの喜びを表現した「松は緑に」は、教師として、ときわ会員として歩んできた私をずっと支えてくれた歌である。感謝の念をもってこれからもずっと声高らかに歌い継いでいきたい歌である。

なお、現在ときわ会歌を歌うときに用いるCDは、平成十三年三月四日に附属長岡小学校音楽室に音楽部員等の会員が集まっての演奏が収録されたものであり、オーケストラ演奏は昭和六十二年六月にプロオーケストラである新星日本交響楽団によって演奏されたものである。

（昭60）

はまなす抄

部活動地域移行に向けて

新穂中学校
岩﨑浩史

今、中学校部活動指導が大きな転機を迎えている。今年の六月に「運動部活動の地域移行に関する提言」が発表され、令和五年度より休日の部活動から段階的に地域に移行し、その後平日の部活動も地域に移行するという内容である。市内中学校では、少子化によって部活動が限られる。単独校で活動が維持できない。部活動指導が教員の大きな業務負担となっている現状もあり、部活動が地域移行することによってその改善が期待されている。課題は、指導者の確保と養成、地域部活動の組織づくり、学校部活動との関連、参加しやすい環境整備等による持続可能な活動とすることである。学校だけで解決することは難しいが、中学校区の実態に応じて、部活動指導員の積極的活用、指導者の発掘、地域との情報共有、地域と連携した部活動の実施等は可能である。子どもたちが自分の目的や体力に応じて多様な活動ができる地域社会の実現に向けてできることから進めていきたい。

（昭63）

〔特集〕

主体的・対話的で深い学びの取組

主体的・対話的で「深い」学びを実現するために

佐渡中等教育学校
村山貴之

数学科における学びの一つは、いろいろな条件下での「きまり」を見いだすことだと考えている。先日の授業（三平方の定理）で、生徒に次のような内容を問うてみた。

⑴正三角形の辺の長さが2、4、6…と変わると、面積はどのようなきまりで変わっていくか？

↓$\sqrt{3}$は求めたどの正三角形の面積でも共通しており、辺の長さが変わるのに伴って変わるのは、$\sqrt{3}$にかけられている数字である。そこに注目した生徒は、「$\sqrt{3}$にかけられている数字は、二乗に比例して変化している」というきまりを見つけ、グループの中で共有した。

⑵辺の長さが86㎝だとしたら、面積はどうなると予想できるか？

↓それまでのきまりをもとにすれば、突然数字が大きくなっても「一辺の長さを半分にしたものを二乗し、$\sqrt{3}$をかければよいのではないか」と予想して、面積を求めることができた。

⑶具体的な数値ではなく、文字で表すことになったら、式はどう表されるか？

↓文字に変わっても同じように扱えるようにすることは、数学において非常に重要な過程である。正三角形の一辺をxとすると、高さはどう表せるか、面積を表す式はどうなるか、じっくりと考えていた。

⑷これまでに求めたことをもとにして、他の図形に応用できることは？

↓発展課題として、正六角形の面積について考えた。対角線をひき、合同な正三角形を六つ組み合わせたものと考えれば正三角形の面積の六倍で求められることに気付き、正しい答えを導くことができた。

問題の条件を変えながら、数学的な見方を働かせ、考えを深めていけるよう、これからも生徒とともに対話しながら授業を作り上げていきたい。

（平16）

年に数回、こんな授業があってもいいじゃない？

赤泊小学校
川上大雅

道徳で深い学びを実現したいと思うとき、私は「動き」のある学習過程を創ることが大切だと考える。動きのある学習過程とは、国立教育政策研究所総括研究官の西野真由美様にご教授いただいたものである。

①子どもから「問い」を生み出す導入で、「解決したい」という「心の動き」を創る。

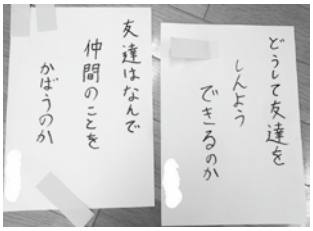
②多様な考えと出会える「思考の動き」を創る。

③関わり合いで「身体の動き」を創る。（座席の工夫・役割演技）

④振り返りから「未来への動き」（新たな問いや目標）を創る。

これらを実現しようとするとき、思い切った教師の思考の転換や子どもの認識の転換を求めることになる。私が今、大切にしているのは「問い」である。日々の授業では教師が一方的に問いを示さないようにしている。テーマを示して問いを考えさせたり、子どもとのやりとりの中で、子どもから湧き上ってきた思いを子どもと協力して言語化し、授業で考えていく問いにしたりしている。

これまでの実践では、教材の内容を理解させた後に「友情」というテーマを示し、「友情があれば、ついてもよい嘘はあるのか？」という問いが生まれたことがあった。そして授業ではこの問いについて全員で円座になって対話した。多様な考えに触れることで自らのもつ価値観について捉え直す時間となった。



子どもの知的好奇心が生み出した問いで進む授業が、年に数回あっていいのではないかと思う。

子どもに寄り添い、子どもと共に学ぶことを通して、深い学びを実現していきたい。

（平20）

主体的・対話的で深い学びの取組～株式会社ＳＢＳの活動を通して～

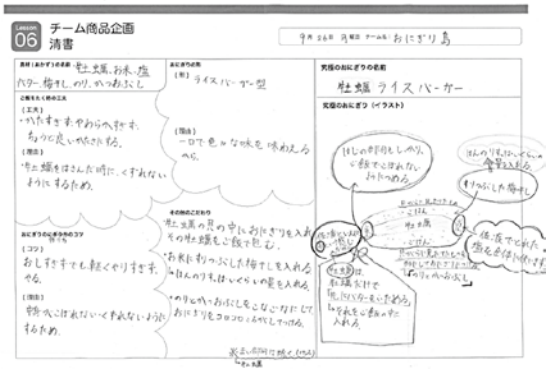
金井小学校
戸川慶典

担任している六年生では、総合的な学習の時間で「株式会社ＳＢＳ」と題し、佐渡市の地域づくり課と新潟市の株式会社ネルニードさんと手を組み、起業家の学習に取り組んでいる。

目標は、佐渡の食材を使った「最高のおにぎりキット」を販売することである。

九月は、「おにぎりの具材を何にするか」「どんな商品名にするとお客さんの目を引くのか」を話し合い、企画書を書き上げた。夏休みの宿題で考えた案をチームで伝え合うと、「その具材いいね！」「私の具材と合わせるとおいしいかな？」「味付けって他にないかな？」など、子どもたちのアイデアがどんどん膨らんでいった。「料理人に質問をしてみたい」という言葉から料理人をゲストに招き、アイデアをもらうと、「やっぱりこの具材は難しいかな」「前に話したこの具材でやってみよう」「具じゃなくて混ぜご飯にしちゃえばいいよ」など、徐々に考えがまとまり、立派な企画書を書き上げることができた。その間、教師は見回り「いいね！」「それ、どういうこと？説明してみて」などの簡単な声掛けをするだけで、子どもたちの会話は止まることなくあっという間に四十五分が過ぎていった。

子どもたちが目標の実現に向かって話し合いに取り組む姿は、主体的な姿そのものであり、真剣に議論しながら考えをブラッシュアップしていく姿は、対話的な活動を通して考えを深めていく姿そのものである。

今後は、WebページやYouTubeで商品のＰＲ活動の準備を進めていく。子どもたちがどんな言葉で自分たちのアイデアを膨らませていくか、起業家の卵として活躍する姿がとても楽しみである。

（平24）